

# 折口信夫 (おりくち・しのぶ) 1887～1953

国文学者・民俗学者・歌人 ～古代への旅人 折口学への誘惑者～

**出生** 1887年(明治20)2月11日、大阪府西成郡(現・大阪市浪速区)に医を本業とし、雑貨商を営む大家族の四男として生まれる。幼い頃より和歌や芝居に親しんだ。

**履歴** 国学院大学国文科卒業(1910)。大阪府立今宮中学で教員生活をはじめ、退職して上京、私立郁文館中学教員、国学院大学専任講師を経て、1922年、国学院大学教授となる。慶應義塾大学文学部講師を経て、1928年、教授。1932年雑誌「短歌研究」が創刊され選者となる。1943年、大日本芸能学会を創設し、会長となる。1948年、『古代感愛集』(全集26に収録)により昭和23年度芸術院賞受賞。日本学術会議会員。

**事績** 民俗調査によって日本の古典を解き明かすという折口学をうちだし、国文学の世界に新風を吹きこんだ。沖縄など全国各地を旅行して民俗芸能を調査した。歌人としての筆名は釈迢空。句読点を打った短歌で独自の歌風を築いた。

**評価** 民俗学を国文学研究に取り入れて、文学史の上に発生的な見方を導入し、学問的、思想的に革新的な影響を与えた。(参考『新潮日本文学辞典』新潮社)

短歌、詩、小説を書き、日本芸能史や古代研究にわたっては、詩人的直感にもとづくおよそ類のない想像力と洞察にあふれた仕事を残した。研究方法の上で最も重要視したのは“実感”であった。

## 代表作

『古代研究』国文学、民俗学、芸能史などの斬新な研究に触れることができる。全集1～3に収録。

『死者の書』奈良の当麻寺の曼陀羅にまつわる中将姫伝説に題材を得た小説。全集27に収録。

『海やまのあひだ』民俗探訪の旅で親しんだ海辺や山中でひっそり暮らす人への共感を歌った処女歌集。逆編年体で編成。全集24に収録。

## キーワード

**まれびと** 客神。唯一と尊敬の意が込められた。折口学説の基幹となる語。 **常世(とこよ)** まれびとの居所。まれびとは常世から人間世界を訪れる。 **貴種流離譚(きしゅりゅうりたん)** さすらいの神の物語が悲劇的要素を形成しており、このモチーフが日本文学に流れていることを指摘した。ほかにも折口名彙は数多い。

**レポート** 抜群の記憶力、仰天の読書量。頭の回転の速さゆえの口述筆記。一流の芝居見。北原白秋は彼を「黒衣の旅人」と評した。三島由紀夫の『三熊野詣』は彼をモデルにしたものといわれる。独身生活を続けたこと、彼に心酔する門下生が多かったこと、同性愛の傾向、民俗学の師である柳田国男との確執など人間関係を考察されることが多い。

**神奈川** 神奈川県足柄下郡史編纂を嘱託され、小田原の旅館に下宿(1932)。神奈川県図書館協会主催文芸講演会で「無頼の徒の芸術」を講演(1928)。箱根仙石原の温泉分譲地購入(1933)、竣工(1939)、叢隠居と称し、春夏の休暇にはよく滞在した。

**最期** 1953年(昭和28)9月3日、胃がんのため東京都新宿区の慶応大学病院で死去。享年66歳。



## Great Works 28

折口信夫全集 全41巻 中央公論社 1995～2002年 <910.8/102>

### 解題

第1期の全集(全32巻 中央公論社 1954～1957年)は日本芸術院恩賜賞受賞。折口の学問の全貌が、はじめて世に知られ、学者としての業績が正当に評価されるようになった。第2期としてノート編(全19巻 中央公論社 1970～1974年)刊行。第3期全集がこれである。全巻の解題を執筆した岡野弘彦は晩年の折口と居住し、身边を世話した内弟子である。

### 内容

1～3＝古代研究(国文学篇)(民俗学篇1～2) [大岡山書店 1929～1930年 全3巻として刊行。最初の論文集であり、折口学の独創性を世に問うた著作である]

4＝文学発生論 日本文学の発生序説 [1942年] 他

5＝古代文学論 大和時代の文学 [岩波書店 1933年] 風土記の古代生活 [岩波書店 1932年] 他

- 6～8＝万葉集 1～3 万葉びとの生活 [1920年] 万葉集講義 [1919年] 日本古代抒情詩集 [河出書房 1953年] 東歌疏 [楽浪書院 1936年] 選註万葉集抄 [芸苑社 1947年] 他
- 9～10＝口訳万葉集 (上・下) [文会堂書店 1916～1917年 万葉集全歌に訓読と口語訳をつけた] 他
- 11 万葉集辞典 [文会堂書店 1919年]
- 12＝言語論 言語情調論 [1910年 卒業論文 国学院大学に提出] 副詞表情の発生 [高遠書房 1934年] 他
- 13～14＝和歌史 1～2 新古今前後 [1936～1938年] 世々の歌びと [鎌倉文庫 1949年] 恋の座 [1946年] 近代短歌 [河出書房 1940年] 他
- 15＝後期王朝文学論 伊勢物語私記 [名著刊行会 1930年] 反省の文学源氏物語 [1950年] 他
- 16 国文学・短歌論・国語学 [戦後、慶応義塾大学通信教育の教材として刊行された三篇を収めた]
- 17～19＝民俗学 1～3 春来る鬼 [1934年] 仇討ちのふおくろあ [1951年] 女の香炉 [中央公論社 1947年] 大倭宮廷の勅業期 [1933年] 石に出で入るもの [1932年] 生活の古典としての民俗 [1934年] 足柄下郡史ひとと帳 [1918年] 他
- 20＝神道・国学論 民族史観における他界観念 [角川書店 1952年 国学院大学創立七十周年記念論文集に掲載された最後の学術論文であり、いまなお刺激的] 神道宗教化の意義 [1947年] 他
- 21～22＝芸能史 1～2 日本芸能史六講 [三教書院 1944年] かぶき讃 [創元社 1953年] 他
- 23＝日本文学啓蒙 [朝日新聞社 1950年 著者の講義を筆記したもの 巻末に「日本文学系図」附載]
- 24～25＝短歌作品 1～2 海やまのあひだ [改造社 1925年] 春のことぶれ [梓書房 1930年] 倭をぐな [中央公論社 1955年 没後刊行] 他
- 26＝詩 古代感愛集 [角川書店 1952年 処女詩集] 近代悲傷集 [角川書店 1952年] 他
- 27＝小説・初期文集 死者の書 [青磁社 1943年] 身毒丸 [1917年] 他
- 28＝戯曲・連句 花山寺縁起 [1941年 草稿] 東北車中三吟 [1941年] 難波の春 [放送劇の台本。家持に滝沢修。舞姫に山本安英] 他
- 29～30＝短歌評論 1～2 歌の円寂するとき [1926年 島木赤彦の死を契機に書かれた短歌滅亡論] 切火評論 [1914年 島木赤彦の歌集『切火』を批評した] 雲母集細見 [1915年 北原白秋の歌集『雲母集』を批評した] 他
- 31＝歌評 自歌自註 [1954年] 短歌啓蒙 [芸苑社 1947年] 他
- 32＝近代文学評論 山の音を聴きながら [1949年 川端康成作品評論] 山越しの阿弥陀像の画因 [1944年 『死者の書』の執筆動機を述べている] 他
- 33＝随想ほか 零時日記 [1914年] 海道の砂 [1917年] 他
- 34 日記・書簡・補遺 別巻 1 折口信夫講義
- 35 万葉集短歌輪講・手帖 別巻 2 折口信夫対談論講
- 36 年譜・著述総目録・講義目録・全集総目次・短歌索引 別巻 3 折口信夫対談
- 37 総索引 別巻 4 折口信夫写真集 (未刊)

## ◆ 参考文献 ～この人をもっと知るために～

<図書>

- ☞ 迢空・折口信夫事典／有山大五ほか編  
勉誠出版 2000年 442,6p <910.26/1768> 相談室 資料番号 21232905
- ☞ 釋迢空ノート／富岡多恵子著  
岩波書店 2000年 345p <911.16LL/537> 資料番号 21442801
- ☞ 折口信夫伝／岡野弘彦著  
中央公論新社 2000年 478p <910.26LL/1978> 資料番号 21468186
- ☞ 折口信夫の詩の成立／藤井貞和著  
中央公論新社 2000年 262p <911.52NN/486> 資料番号 21664529
- ☞ 生涯は夢の中径／吉増剛三著  
思潮社 1999年 270p <910.26NN/2155> 資料番号 21664537
- ☞ 折口信夫事典増補版／西村亨編  
大修館書店 1998年 787p <911.162/258A> 相談室 資料番号 21054002
- ☞ 折口信夫を読み直す (講談社現代新書)／諏訪春雄著  
講談社 1994年 202p <910.26DD/1430> 資料番号 20724159
- ☞ 折口信夫の晩年／岡野弘彦著  
中央公論社 1969年 292p <910.28/363> 資料番号 11902277
- ☞ わが師折口信夫／加藤守雄著  
文芸春秋 1967年 241p <910.28/439> 資料番号 11903176